

果樹情報 第9号 (R8.7.22～R8.8.4)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

もも「あかつき」の果実は満開後日数対比で平年より大きいですが、調査園地変更により参考値となります。なし「幸水」の果実肥大は、満開後日数対比で平年より小さく、「豊水」の果実肥大は、満開後日数対比で平年並の状況であり、りんご「ふじ」は満開後日数対比で平年並の状況です。

表1 管内の各樹種における果実肥大状況（令和8年7月 16 日現在）

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比(暦日)	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	58.5	66.6	52.9	58.8	111	113
	ふじ(鏡石町高久田)	56.7	60.9	51.5	56.4	110	108
	ふじ(石川町沢井)	52.2	59.7	49.9	54.6	105	109
	つがる(石川町沢井)	62.2	66.7	57.5	65.3	108	102
	ジョナゴールド(石川町沢井)	56.2	64.1	54.2	61.5	104	104
	シナノスイート(石川町沢井)	55.1	59.6	51.2	53.5	108	111
もも	あかつき(須賀川市浜尾)	66.5	80.4	59.0	62.5	113	129
なし	幸水(須賀川市越久)	41.6	51.5	39.2	47.1	106	109
	豊水(須賀川市越久)	45.7	51.5	40.7	45.2	112	114

2 栽培上の留意点

(1) 共通

ア かん水

夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安にし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回当たりのかん水量は少なくし、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸散量は、草生園においてマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

ウ マルチ

刈草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 核障害の発生状況

果樹研究所の調査結果によれば、満開後95日における「あかつき」の核障害発生率は、核頂部亀裂が25%で平年より少なく、縫合面割裂が55%で平年より多い傾向にあります。

イ 中生品種の収穫前管理

果樹研究所のDVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の収穫開始日は7月23日で、収穫盛期日は7月26日と予測されています。例年、須賀川地域における収穫開始は福島市よりも2日程度遅くなります。

核や胚に障害を持つ果実は早熟する傾向にあるので、核障害の発生が多い場合は収穫が遅れないよう注意が必要です。また、「あかつき」等中生種は現在着色期に入っていますが、「まどか」等、他の中生品種について間もなく着色期にはいるため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) なし

ア 収穫予測

果樹研究所DVRモデルにおける「幸水」の収穫盛期の予測では、福島市で8月21日頃と予測されています。例年、須賀川地域における収穫開始は福島市よりも2日程度遅くなります。

イ 修正摘果

「幸水」は裂果の状況に注意して修正摘果を実施します。修正摘果は、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が薄い果実（肥大が停滞しやすい）及び満開後100日頃の横径が60mm未満の小さな果実を整理し適正着果に努めましょう。「幸水」は満開後110日（8月4日）時点で、横径80mmの果実は2L（32玉）、横径70mmの果実はM（40玉）程度に肥大するとみられます。

「豊水」は満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果します。

(4) りんご

ア 修正摘果

果実肥大や果形、障害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意してください。

3 病虫害防除

(1) りんご褐斑病

梅雨期の降雨により、今後発生が急拡大するおそれがあるため、本病の発生状況を注視しましょう。本病が多発すると罹病落葉での子のう胞子の越冬量が増加し、次年度の多発を招くおそれがあるため、防除間隔が空かないよう10日間隔での防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

(2) もも灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期は灰星病の重点防除期であるため、降雨前に防除を実施してください。晩生種に対しては、ホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、収穫期の薬剤防除を徹底してください。なお、薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意してください。

(3) モモハモグリガ

今後の気温が2℃高く推移した場合、モモハモグリガの第3世代成虫の誘殺盛期は、7月3半旬頃と予測され、第4世代の防除適期は7月4半旬頃と推定されます（表2）。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意してください。

(4) ナシヒメシンクイ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第2世代成虫の誘殺盛期は、7月4半旬であると予測され、第3世代幼虫の防除適期は、7月5半旬頃と推定されます（表2）。

本種はもも等の核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守するようにしてください。

(5) ナシマルカイガラムシ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第2世代のふ化開始は、7月5半旬頃と予測され、ふ化盛期は8月1半旬頃と推定されます(表2)。カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除するようにしましょう。

(6) ハダニ類

高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行うようにしましょう。

表2 果樹研究所における防除時期の推定(令和8年7月14日現在)

モモハモグリガ						
今後の気温予測	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期		
2℃高い	7月15日	7月19日	8月2日	8月6日		
平年並	7月15日	7月19日	8月3日	8月7日		
2℃低い	7月16日	7月20日	8月5日	8月9日		

ナシヒメシンクイ					ナシマルカイガラムシ	
今後の気温予測	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 ふ化開始	第2世代 ふ化盛期
2℃高い	7月16日	7月22日	8月8日	8月14日	7月25日	8月2日
平年並	7月16日	7月23日	8月11日	8月17日	7月26日	8月4日
2℃低い	7月16日	7月25日	8月15日	8月23日	7月28日	8月7日

起算日: モモハモグリガ第2世代誘殺盛期(予測値) 6月 24 日
ナシヒメシンクイ第1世代誘殺盛期(予測値)6月 14 日
ナシマルカイガラムシ 3月1日 (演算方法は三角法)

(7) カメムシ類

園地におけるカメムシ類飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表3 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

調査日	須賀川市 和田六軒			須賀川市 越久			鏡石町 高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/15	6	0		7	0		3	0		0	0	
6/22	3	0		3	1		8	0		1	0	
6/29	0	0		13	0		9	0		0	0	
7/6	3	0		23	0		47	0		1	0	
7/13	16	0		19	0		45	0		3	0	
7/21	34	0		28	0		25	1		15	0	

作成者: 県中農林事務所須賀川農業普及所 電 話: 0248-75-2181 FAX: 0248-72-8331	ご不明の点は、最寄りの JA または須賀川農業普及所にお問い合わせください。 次回の発行予定日は、8月5日(水)です。
---	--